

緑化木苗木の輸出時の品質低下を抑制する方法

背景

緑化木苗木の輸出では、相手国が規制している害虫を持ち込まないための検疫対策（薬剤処理、その後の養生）や輸送による苗木の品質低下が大きな問題でした。

成果の内容

薬剤処理時期、養生期のかん水方法、輸送時のコンテナの種類および梱包の有無の組合せにより、5樹種の品質低下を10%未満に抑えました。

樹種ごとの品質低下を防ぐための処理方法

樹種	薬剤(MEP)処理時期	養生期のかん水方法	輸送コンテナ	輸送時の梱包	品質低下した割合(%)
ツバキ	夏	手かん水	リーファー	なし	0~5
ツツジ	冬	手かん水	リーファー	あり	0~5
サザンカ	秋	手かん水	ドライ	なし	0
クロマツ	冬	手かん水	ドライ	なし	0~5
イヌツゲ	秋	ミストかん水	ドライ	なし	0~10

ツバキ

梱包なし

ツツジ

ポリ袋で梱包



リーファー

温度管理機能：有



ドライ

温度管理機能：無

サザンカ
クロマツ
イヌツゲ

梱包なし

【研究部のコメント】

○船便で最長2週間かかる東・東南アジアへの輸送でも品質保持が確認できました。この方法の活用がより多くの緑化木苗木の輸出に役立つことを願っています。



(苗木・花き部 花きチーム)